

# 病 理 部

## 1 構 成 員

	平成19年3月31日現在
教授	0人
助教授	1人
講師（うち病院籍）	0人（0人）
助手（うち病院籍）	0人（0人）
医員	0人
研修医	0人
特別研究員	0人
大学院学生（うち他講座から）	0人（0人）
研究生	0人
外国人客員研究員	0人
技術職員（教務職員を含む）	4人
その他（技術補佐員等）	3人
合 計	8人

## 2 教員の異動状況

馬場 聡（部長・助教授）（H18. 6. 1～現職）

## 3 研究業績

数字は小数2位まで。

	平成18年度
(1) 原著論文数（うち邦文のもの）	1編（0編）
そのインパクトファクターの合計	1.85
(2) 論文形式のプロシーディングズ数	0編
(3) 総説数（うち邦文のもの）	0編（0編）
そのインパクトファクターの合計	0
(4) 著書数（うち邦文のもの）	0編（0編）
(5) 症例報告数（うち邦文のもの）	1編（1編）
そのインパクトファクターの合計	0

### (1) 原著論文（当該教室所属の者に下線）

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

1. Ishiwata M, Baba S, Kawashima M, Kosugi I, Kawasaki H, Kaneta M, Tsuchida T, Kozuma S, Tsutsui Y: Differential expression of the immediate-early 2 and 3 proteins in developing mouse brains infected with murine cytomegalovirus. Arch Virol 151(11): 2181-2196, 2006.

インパクトファクターの小計 [1.85]

#### (5) 症例報告

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

1. 吉田克嗣, 玉内登志雄, 久世真悟, 服部正興, 森脇菜採子, 鈴木秀昭, 馬場 聡: 下部胆管狭窄による閉塞性黄疸で発症した高度進行胆嚢癌の1例. 日本臨床外科学会雑誌 67(12): 2923-2928, 2006.

インパクトファクターの小計 [0.00]

### 4 特許等の出願状況

	平成18年度
特許取得数 (出願中含む)	0件

### 5 医学研究費取得状況

	平成18年度
(1) 文部科学省科学研究費	0件 (0万円)
(2) 厚生科学研究費	0件 (0万円)
(3) 他政府機関による研究助成	0件 (0万円)
(4) 財団助成金	0件 (0万円)
(5) 受託研究または共同研究	0件 (0万円)
(6) 奨学寄附金その他 (民間より)	0件 (0万円)

### 7 学会活動

	国際学会	国内学会
(1) 特別講演・招待講演回数	0件	0件
(2) シンポジウム発表数	0件	0件
(3) 学会座長回数	0件	1件
(4) 学会開催回数	0件	0件
(5) 学会役員等回数	0件	0件
(6) 一般演題発表数	0件	

(2) 国内学会の開催・参加

4) 座長をした学会名

1. 馬場 聡 第95回日本病理学会総会 5月, 東京

(3) 役職についている国際・国内学会名とその役割

馬場 聡 日本病理学会学術評議員

## 8 学術雑誌の編集への貢献

	国内	外国
学術雑誌編集数（レフリー数は除く）	0件	0件

## 9 共同研究の実施状況

	平成18年度
(1) 国際共同研究	0件
(2) 国内共同研究	0件
(3) 学内共同研究	0件

## 10 産学共同研究

	平成18年度
産学共同研究	0件

## 12 研究プロジェクト及びこの期間中の研究成果概要

### 1. 悪性中皮腫と肺および腹膜腺癌における claudin 蛋白ファミリー発現の免疫組織化学的検討

Tight junction 関連蛋白である claudin 蛋白ファミリーの発現を悪性中皮腫（17例）、良性中皮増生（4例）、肺腺癌（16例）、および腹膜腺癌（3例）について免疫組織化学的に検討した。悪性中皮腫では約半数に claudin-2、少数に claudin-1 の発現がみられたが、claudin-3～5は全例陰性であった。良性中皮増生では claudin-1 のみ陽性であった。肺および腹膜の腺癌ではいずれも5種類の claudins のうち3～5種が細胞膜に弱陽性～強陽性で、中でも claudin-4 は全例で陽性～強陽性であった。以上のように悪性中皮腫と腺癌とでは claudin 蛋白ファミリーの発現様式に明らかな相違がみられた。特に claudin-4 は、悪性中皮腫と腺癌との鑑別において、感度および特異性ともに非常に優れた腺癌マーカーであると考えられた

### 2. 多形型脂肪肉腫を発症した多発性内分泌腫瘍症1型（MEN-1）の解析

MEN-1 の母子の剖検例について MEN-1 遺伝子の解析を行った。原発不明癌の全身転移で死亡した症例が剖検により多発性内分泌腫瘍症1型（MEN-1）と判明し、*MEN-1* 遺伝子エクソン10にミスセンス変異（GCA→ACA, 541Ala→Thr）を認めた。以前その母親も多形型脂肪肉腫の術後再発で死亡し剖検が行われており、その非腫瘍組織にも同じ *MEN-1* 遺伝子変異（ヘテロ）がみられ、さらに脂肪肉腫組織には異常 *MEN-1* 遺伝子のみがみられ、同遺伝子座のLOHが存在した。*MEN-1* 遺伝子は癌抑制遺伝子の1つとされ、また最近 MEN-1 には内分泌腫瘍以外に脂肪性腫瘍や髄膜腫など多彩な腫瘍の発症が報告されているが、本例は非内分泌性悪性腫瘍の発症に MEN-1 遺伝子機能のホモ欠失の関与が示唆された最初の MEN-1 報告例と考えられた。